

令和 4 年 6 月 1 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18H01095

研究課題名(和文) 認知症の家族介護者を対象とした訪問看護師による認知行動療法の有効性の検討

研究課題名(英文) Feasibility and effectiveness of cognitive behavioral therapy by visiting nurses for family caregivers with dementia

研究代表者

田島 美幸 (TAJIMA, Miyuki)

慶應義塾大学・医学部(信濃町)・特任講師

研究者番号：40435730

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、認知症家族介護者を対象とした認知行動療法プログラム(以下、CBT)の実施可能性の検討、看護師等の支援者研修の実施と効果検討、家族介護者向けの心理教育資料の開発である。研究期間中にCOVID-19が蔓延し、高齢介護者に対する介入研究の実施が困難になった。そこで、研究費の繰越を行い、感染拡大時にも継続的に提供可能な手段として遠隔ビデオシステム(Zoom等)を導入し、高齢介護者でも参加可能な方法を検討した。また、集団CBT、個人CBTの心理教材を開発して介入研究を実施した。支援者研修では、量的・質的な検討の結果、「看護師の認知変容」「看護師のアプローチの変化」が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで認知症の家族介護者は、支援を必要としながらも、自らの支援にアクセスしにくい一群であった。本研究では、海外の大規模ランダム化比較試験によって有効性が確認された、複合的介入プログラムの日本版を作成し、地域包括ケアシステムで活用可能な集団CBTプログラム、COVID-19禍などで介護者の外出が制限される状況下でも、安定的に提供できるオンラインCBTプログラム等を開発して効果検討を行った。さまざまな心理的支援方法を提供することにより、介護者が自分のニーズに合った方法を選択できる可能性が高まると考えられる。

研究成果の概要(英文)：The study aimed (1) to examine the feasibility of a cognitive-behavioral therapy (CBT) program for family caregivers of patients with dementia, (2) to conduct training for nurses and other supporters and to examine their effectiveness, and (3) to develop psychological education materials for family caregivers. The spread of COVID-19 during the study period made it difficult to conduct intervention studies with elderly caregivers. Therefore, we introduced a remote video system (for example, Zoom) to provide continuous face-to-face access even during the spread of infection. We evaluated a method that allows elderly caregivers to participate. In addition, we developed psychological teaching materials for group and individual CBT and conducted intervention studies. In supporter training, quantitative and qualitative considerations such as changing how nurses think and modifying the nursing approach were suggested.

研究分野：精神保健学

キーワード：認知症 認知行動療法 家族介護者

1. 研究開始当初の背景

(1) 認知症の家族介護者の置かれた状況と心理的アプローチ

認知症患者は年々増加し、2025年の有病率は700万人、65歳以上の人口の罹患率は5人に1人と試算されている(厚生労働省, 2015)。認知症に関する社会的コストは14.5兆円、うち、家族介護者によるインフォーマル・ケアコストは6.2兆円と約半数を占め、家族介護者の負担の高さが指摘されている¹⁾。認知症患者の介護では、記憶障害や実行機能障害などの中核症状、徘徊や妄想等の行動・心理状況(以下、BPSD)のために、介護者が多大な精神的・身体的な負担を負う場合もある。そのために、家族介護者が抑うつ症状や不安症状を呈したり、過酷な負荷のあまりに、認知症患者に対する虐待などに繋がってしまう事例も報告されている。

(2) 新型コロナウイルス(COVID-19)が認知症患者や家族介護者に与える影響

昨今の新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19)の拡大は、認知症患者のケアにも影響を与えている(Alzheimer's Disease International, 2020)。認知症患者は正確な情報を得ることができず、マスク着用の対策徹底など、自ら防疫措置を十分に行うことができないことも多い。そのために介護サービスの利用が制限されるなど、必要なケアが十分に受けられない状況に置かれる場合もある²⁾。この状況は国内でも同様であり、外出自粛や面会制限など感染予防の取組みの強化により、認知症患者の認知機能や身体活動量が低下したり、BPSDの悪化が生じたり、介護サービスの利用に制約が生じたりしている³⁾。

これらの状況は、家族介護者のストレスや精神状態にも影響する。介護サービス利用が制約されるために在宅介護の時間が増えたり、外出の機会が減少して被介護者以外の人との接点が減り、孤立した日々を過ごしたりするなど、「COVID-19の拡大後、介護のために精神的・身体的な負担が増した」と感じる家族介護者は増加している^{3,4)}。このように、認知症の家族介護者への精神的ケアは極めて重要で、COVID-19禍においても安定して提供できる心理的支援の整備が急務となっている(Alzheimer's Disease International, 2020)。

(3) 認知症の家族介護者に対する心理的アプローチ

海外の学術研究では、家族介護者の介護負担感に対しては、認知症患者への適切な薬物療法とともに、家族介護者に対する疾病教育や心理教育、集団療法などの心理的アプローチの有効性が報告されている^{5,6)}。また、英国の大規模ランダム化比較試験では、家族介護者のコーピングスキルを高める複合的介入プログラム(STrategies for Relatives; START, 全8回)によって、家族介護者の抑うつ症状やQOLが有意に改善し、医療コストの削減効果が示されている^{7,8)}。

また、COVID-19の拡大下では、一般的にオンラインによる心理的支援のニーズが高まっている。オーストラリアの研究では、感染拡大前と比較してオンラインによる認知行動療法(以下、CBT)の利用が504%に増加し、対面と同様に、介入による抑うつや不安症状の低下が認められたとしている⁹⁾。また、認知症患者やその家族介護者を対象に、ビデオ会議システム(Zoom等)を活用した研究では、電話による遠隔診療にビデオ会議システムによる面談を追加した群では、介護者の健康関連QOL、介護負担感、セルフ・エフィカシーが向上したという報告がある¹⁰⁾。

2. 研究の目的

本研究の目的は、下記の3点とした。

- (1) COVID-19禍のさまざまな制約下でも実施可能な、認知症家族介護者を対象としたCBTプログラム(個人・集団)の実施可能性と安全性の検討する
- (2) 上記プログラムの普及・啓発に向けた看護師などの支援者研修を実施し、その効果を検討する
- (3) 家族介護者向けの心理教育資材を開発する

3. 研究の方法

(1) COVID-19禍のさまざまな制約下でも実施可能な、認知症家族介護者を対象としたCBTプログラム(個人・集団)の実施可能性と安全性の検討

認知症家族介護者に対するCBTプログラムとして、地域や医療機関で提供できる集団プログラム、および、訪問看護やオンラインなどで提供できる個人プログラムを開発し、実施可能性や安全性を検討した。

【集団CBTプログラム】

対象；小平市の市報やチラシを見て、あるいは、地域の包括職員や介護専門職に勧められて申し込んだ認知症の家族介護者

リクルートと説明同意取得；小平市市報やチラシに研究協力の依頼について記載し、電話な

どで参加の申し込みをされた際に、初回時に研究協力の説明があること、研究への協力を断った場合にも本プログラムへの参加は可能であることを説明した。初回セッション時に研究概要を説明し、プログラム内に実施する心理評価のデータを研究目的で解析することに對して、口頭および文書の同意を取得した。

内容；1) 認知症に関する正しい知識の習得、2) 認知症患者への対応法、3) 家族介護者自身のセルフケアの実践 を主な内容として、1回あたり90分×全5回、隔週で実施した。講義、ワーク、グループディスカッションで構成する集団プログラムとした。

実施方法；COVID-19の感染状況悪化に伴い、研究実施期間中に計4回の緊急事態宣言が発令された。1回目の緊急事態宣言と重なった第2クール(2020年5月～)は小平市の方針によって会場で行う対面・集合形式での開催を中止、地域包括支援センターや小平市と実施方法を検討の上、2020年10月に延期して、会場と遠隔ビデオシステム(以下、Zoom)を併用して実施した。小平市のガイドラインに則り、参加者のヘルスチェックシート(各講座日前14日間の参加者本人と同居家族の健康観察)の提出、会場での検温、手指消毒、マスク着用、参加者間の2メートル間隔の確保、窓開け換気(常時)、机や椅子の消毒等の入念な感染予防対策を講じた。講師が所属する医療機関の行動指針のフェーズにより、出講が困難になった際には、講師はZoomで講義を行った。この際、360度対応の会議用ウェブカメラを使用して、講師が会場の様子を把握できるように工夫した。第4,5クールも会場とZoomを併用する形で実施した。なお、第3クールは、非常事態宣言発令時の新たな実施方法を試行するため、参加者と講師ともにZoomで参加した。

評価項目；評価項目は介入前、介入後の2時点で測定した。主要評価項目は介護者の精神症状(HADS)、副次項目は介護負担感(J-ZBI_8)、被介護者の行動・心理症状(NPI-Q)

倫理的配慮；慶應義塾大学医学部の倫理審査(承認番号20190069)を経て実施した。

【個人 CBT プログラム】

対象者；20歳以上80歳未満で、軽度認知障害(MCI)や認知症の症状を有する親族の介護を行う方、ビデオ会議システム(WebEx, Zoom等)を介して、基本的に週1回のプログラムの受講が可能な方

リクルートと説明同意取得；医療機関を受診する認知症患者の家族介護者、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、社会福祉協議会、認知症の家族会などを利用する認知症患者の家族介護者に本研究のチラシを配布し、参加希望者に説明文書を用いて研究の説明と同意を行い書面で同意が得た。

内容・実施方法；50分×8回、週1回実施。事前にテキストやワークシートを郵送し、ビデオ会議システム(Zoom等)を介してCBTプログラムを提供した。

評価方法；主要評価項目は家族介護者の介護負担感(J-ZBI_8)、副次項目は、家族介護者の抑うつ・不安症状(HADS)、健康関連QOL(SF8)、認知症介護肯定感尺度(DCPFS-21)、被介護者の行動・心理症状(NPI-Q)

倫理的配慮；慶應義塾大学医学部の倫理審査(承認番号20211037)を経て実施した。研究参加は任意であり、いつでも撤回できること、個人情報保護を徹底し、研究結果の公表の際は個人情報特定されないこと等について明示した。

*個人 CBT プログラムとして、訪問看護師が訪問時に実施するプログラム(30分×11回)も開発し、施行した。

(2) プログラムの普及・啓発に向けた看護師等の支援者研修の実施とその効果の検討

訪問看護師などの認知症家族介護者の支援者に対する CBT 教育研修は、国内では十分に実施されていない。そこで、看護師を対象とする研修を実施し、量的・質的データから、その効果を検討した。

対象者；認知症の家族介護者のケアに携わる看護師など

募集方法；チラシを作成し、東京、埼玉、千葉、神奈川の訪問看護ステーション1,587カ所に発送した。

オンライン研修会の概要；講義(動画視聴含む)・グループ演習で構成した(3時間)。内容は、認知症の家族介護者に対する心理的支援が必要な背景、家族介護者向けプログラムの具体的な内容の紹介(認知症の基礎知識、認知症の方の世界を理解する、認知症の方の『困った行動』への対処～応用行動分析～、家族介護者の介護ストレス・ケアの必要性、行動活性化～介護者の健康行動を増やす～、認知再構成法～見方や考え方を広げる～、マインドフルネス～こころの扉をひらく～、上手なサポートを得る等)とした。研修中はZoomのカメラをオンにして、グループ演習はブレイクアウトセッションの機能を用いて、複数名のグループに分かれて行った。

データ収集方法；質問紙は事前に参加者に郵送し、研修開始前の説明と同意取得後、参加者にその場で質問紙への回答を求めた。質問紙は、在宅看護の質自己評価尺度(SHHCN)、認知療法認識尺度(CTAS)、一般性セルフ・エフィカシー尺度(GSES)と属性等のフェイスシートで構成し、研修開始前と終了2ヶ月後の2時点で測定した。また、終了後2ヶ月時点で、同意の得られた5名に対して30分程度のインタビューを実施した。インタビューでは、日常臨床で研修内容をどのように活かし、どのような効果が得られたのか、活かせなかった場

合はどのような点だったか、研修に対する要望などについて尋ねた。
データ分析方法；SHHCN、CTAS、GSESは、研修開始前と終了後2ヶ月の2時点で統計解析により比較検討した。インタビューデータは逐語録に起こした後、CBTの実施目標の達成状況や知識・スキルの向上、認知症の家族介護者に対する対応への効果、認知症患者に対する対応への効果、SVを含めた研修プログラムの評価などの視点からコード化、カテゴリー化し、カテゴリー間の比較検討をしながらカテゴリーを精練させた。
倫理的配慮；国際医療福祉大学倫理審査委員会の承認を得て実施した(17-10-197-2)。研究参加は任意であり、いつでも撤回できること、個人情報保護を徹底し、研究結果の公表の際は個人情報特定されないこと等について明示した。

(3) 家族介護者向けの心理教育資料の開発

英国のSTrategies for Relatives (START)プログラムを翻訳し、日本人の特性や日本の認知症施策等を踏まえて、活用場面に応じた改訂プログラムを作成した。

4. 研究成果

(1) COVID-19禍のさまざまな制約下でも実施可能な、認知症家族介護者を対象としたCBTプログラム(個人・集団)の実施可能性、安全性の検討

【集団CBTプログラム】

実施状況；5クール(1クール；対面・集合形態、2・4・5クール；会場とZoomの併用、3クール；Zoomのみ)を実施、参加者数は42人、研究同意は39人であった。

参加者の基本属性；全参加者の平均年齢は69.24歳(SD=10.66)、対面・集合形式時は72.0歳(SD=11.46)、会場とZoomの併用時は68.62歳(SD=10.62)、Zoomのみは64.50歳(SD=13.48)であった。女性が27人(77.1%)、被介護者との関係は、子が20人(57.1%)、配偶者が13人(37.1%)などで、被介護者との同居は23人(65.7%)であった。開始時のHADSは15.46点(SD=15.46)、J-ZBI_8は14.13点(SD=5.73)であった。

被介護者の基本属性；平均年齢は84.79歳(SD=7.13)、アルツハイマー型認知症と診断された人は19人(54.3%)、在宅介護が33人(94.3%)であった。20人(87.0%)が介護認定を受け、要介護状態等区分は要介護1が16人(45.7%)と最も多く、26人(74.3%)が福祉サービスを利用していた。

参加回数；平均出席回数は4.13回(SD=1.24)、その内訳は対面・集合形態時が4.08回(SD=1.12)、会場とZoom併用時が4.13(SD=1.24)、Zoomのみが4.25(SD=15.00)であった。プログラムを完遂(80%以上の出席)したのは39人中31人、完遂率は79.5%であった。プログラムの総脱落者(連続3回以上の欠席)は4人、脱落率は10.3%であった。脱落者の内訳は、対面・集合形態時が1人(2.6%)、会場とZoom併用時が2人(5.1%)、Zoomのみが1人(2.6%)であった。

有効性の検討；脱落者4人を除く参加者(35人)では、HADS得点、J-ZBI_8得点、NPI-Q得点で、介入前後で有意差が認められなかった。被介護者の介護度が要介護2以上の参加者(11人)では、HADSの抑うつ得点は有意に得点が低下した。また、HADS総得点、HADSの抑うつ得点は、介入前後で中程度の効果量が示された。

参加者の感想；自由記述のアンケートでは、「親の老化を受け入れられず、自分を責めたり親を責めたりしていたが、そのような感情を持ってよいのだと思えるようになってラクになった。」「他の人の介護の様子を聞くことで、それぞれ状況や環境は違うが、困っている点は同じだと感じた。毎回、とても勉強になった。」などの記載が見られた。

【個人CBTプログラム】

訪問看護師が訪問時に実施するプログラムに参加した家族介護者は3人であった。面接を担当した訪問看護師に対して、毎回、面接録音に基づくスーパービジョンを行い、認知療法尺度(CTRS)で面接の質の評価を行った。しかし、COVID-19の蔓延に伴い、感染対策上の問題から、訪問看護師が通常のケア以外に訪問介護時に家族介護者に対して介入研究を継続することが困難になった。そのため、研究費の繰越を行い、研究体制基盤の立て直しを行った。その後、遠隔ビデオシステム(Zoom等)を活用した家族介護者への支援の方法を新たに検討し、テキストや治療者マニュアルを作成、研究倫理の申請などの介入研究の準備を行った。現在、4人の研究同意が得られ、1人は実施中、3人が介入を終了している。今後も、研究エントリーを継続していく予定である。

(2) プログラムの普及・啓発に向けた看護師などの支援者研修の実施とその効果の検討

オンライン研修への申込者は112人、実際に参加したのは54人であった。同意書と質問紙が返送され、有効とみなした者は43人であった(有効回答率79.6%)。43人の属性は、訪問看護師の経験年数は平均6.6年(SD=6.6)、CBTの研修受講時間は平均6時間(SD=19.7)、CBTの実施経験は平均0.3ケース(SD=1.0)、CBTのスーパービジョンを受けた経験は平均0.1回(SD=0.6)であった。研修会開始前のSHHCNの平均値は120.9点(SD=17.4)、終了後2ヶ月の平均値は123.3

点(SD=17.1)で有意差はなかった($t=-1.18, p=0.25$)。研修会開始前のCTAS平均値は7.5(SD=6.8)、終了後2ヶ月の平均値は8.8(SD=5.8)で有意差はなかった($t=-1, p=0.33$)。研修会開始前のGSESの平均値は8.7(SD=3.7)、終了後2ヶ月の平均値は9(SD=3.5)で有意差はなかった($t=0.8, p=0.43$)。

インタビューデータからは、研修に参加したことにより、対象となった 看護師の認知変化や 看護師のアプローチの変化 がみられた(《 》: カテゴリー、< > : サブカテゴリー)。看護師の認知変化 には、< 認知症の方の体験世界への理解 > < 認知症の方の行動への理解 > < 多様な視点でみることに気づき > < 介護者から解決策を引き出す大切さへの気づき > < 介護者へのケアの必要性への気づき > < 具体的なサポート方法への理解 > < 介護者の気持ちへの理解 > があった。

看護師のアプローチの変化 としては、< 一緒に考える > < 今の時間を大切にすることを伝える > < 工夫することで穏やかに過ごせることを体感してもらう > < 介護者に実際をみってもらう > < 介護者の意欲を引き出す > < きっかけを変える工夫 > < 別の視点の捉え方を伝える > < 本人の力を引き出す > < マインドフルネスに基づき伝える > < 良いところを具体的に伝える > < 認知症の方の世界を具体的に伝える > < 実践的な技法を意識してかかわる > があった。またマインドフルネスの内容を学ぶことで 看護師自身のストレスからの開放 があった。研修に対しては< 現実に結びつく内容 > との点から、効果的な研修内容 と評価していたが、他参加者との共有時間などが欲しいといった 課題 も挙げられていた。

これらの分析結果から、1回の研修では、看護師の在宅看護の質の変化や CBT 実践に関する知識、自己効力感の変化は見られないものの、研修内容を理解し、認知症患者と介護者およびその対応に関する看護師自身の認知の変化や、看護師のアプローチの変化が示唆された。今後、データを蓄積して検討する必要があると考えられた。

(3) 家族介護者向けの心理教育資料の開発

心理教育教材は、主に、認知症に関する正しい知識の習得、応用行動分析を用いた認知症患者への対応法の検討、家族介護者自身のセルフケアの実践などで構成した。訪問看護師が訪問看護時に用いる教材(30分×11回)、集団療法の教材(90分×5回)、オンラインCBTの教材(50分×8回)に関して、テキストおよび治療者マニュアルを作成した。また、家族介護者自身が振り返り、記入しながら使用できる教材¹¹⁾を出版した。

その他、看護師などの支援者を対象にした研修用の教材を作成し、これらの教材を用いた研修やワークショップを開催した。その他、病院職員、地域包括支援センター職員等にプログラムを見学してもらうなどして普及啓発を図った。

引用文献

- Sado M, Ninomiya A, Shikimoto R, Ikeda, B, et al.: The estimated cost of dementia in Japan, the most aged society in the world. PLoS ONE,13(11):e0206508(2018) .
- Wang H, Li T, Barbarino P, et al: Dementia care during COVID-19, Lancet, 395(10231), 1190-1191(2020)
- 石井伸弥: コロナ禍における認知症の診療・介護の問題点と対処方法; コロナ禍が認知症患者とその家族に及ぼす影響. 認知症の最新医療, 11(2), 66-70(2021)
- 認知症関係当事者・支援者連絡会議 (<https://www.alzheimer.or.jp/wp-content/uploads/2020/10/6f9feba84ef3c8d0f7bc93758867a024.pdf>)
- Adelman RD, Tmanova LL, Delgado D, et al.: Caregiver burden: a clinical review, JAMA, 311(10), 1052-60(2014)
- Sörensen S, Pinquart M, Duberstein P.: How effective are interventions with caregivers? An updated meta-analysis, Gerontologist, 42(3), 356-72(2002).
- Livingston G, Barber J, Rapaport P, Knapp M, et al.: Clinical effectiveness of a manual based coping strategy programme (START, STRategies for RelaTives) in promoting the mental health of carers of family members with dementia: pragmatic randomised controlled trial. BMJ, 347:f6276(2013).
- Knapp M, King D, Romeo R, Schehl B, et al.: Cost effectiveness of a manual based coping strategy programme in promoting the mental health of family carers of people with dementia (the START (STRategies for RelaTives) study): a pragmatic randomised controlled trial. BMJ, 347:f6342(2013).
- Mahoney A, Li I, Haskelberg H, et al.: The uptake and effectiveness of online cognitive behaviour therapy for symptoms of anxiety and depression during COVID-19, J Affect Disord, 292, 197-203, 2021.
- Lai FH, Yan EW, Yu KK, et al.: The Protective Impact of Telemedicine on Persons With Dementia and Their Caregivers During the COVID-19 Pandemic. Am J Geriatr Psychiatry, 28(11):1175-1184(2020).
- 田島美幸, 藤澤大介, 石川博康. ワークで学ぶ認知症の介護に携わる家族・介護者のためのストレス・ケアー認知行動療法のテクニック, 金剛出版, 2019

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計35件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 田島美幸, 石川博康, 吉原美沙紀, 原祐子, 藤里紘子, 岡田佳詠, 藤澤大介	4. 巻 12
2. 論文標題 認知症の家族介護者のメンタルヘルスと認知療法・認知行動療法	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 認知療法研究	6. 最初と最後の頁 31-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤澤大介, 色本涼, 田村法子, 石川博康, 田島美幸	4. 巻 75
2. 論文標題 認知症家族介護者の認知行動療法START (家族のための戦略) プログラム: 基礎編	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 保健師ジャーナル	6. 最初と最後の頁 373-379
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川博康, 田島美幸, 岡田佳詠, 藤澤大介, 田村法子, 佐藤洋子	4. 巻 75
2. 論文標題 認知症家族介護者の認知行動療法: START (家族のための戦略) プログラム: 実践編	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 保健師ジャーナル	6. 最初と最後の頁 332-336
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田島美幸, 石川博康, 原祐子, 藤澤大介	4. 巻 38(2)
2. 論文標題 ポジティブ精神医学 - 認知症の家族介護者へのアプローチ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本精神科病院協会雑誌	6. 最初と最後の頁 134-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤澤大介	4. 巻 48 (10)
2. 論文標題 認知症家族介護者に対する認知行動療法：STARTプログラム	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 総合リハビリテーション	6. 最初と最後の頁 939-944
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 色本涼, 田村法子, 田島美幸, 石川博康, 原祐子, 重枝裕子, 吉崎崇仁, 船木圭, 田淵肇, 三村将, 藤澤大介	4. 巻 31 (4)
2. 論文標題 認知症家族介護者に対するの集団認知行動療法：日本版START (家族のための戦略) プログラム.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 色本涼, 田村法子, 藤澤大介	4. 巻 4964
2. 論文標題 診察室ですべき認知症の人と家族への非薬物療法	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本医事新報	6. 最初と最後の頁 24-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤澤大介	4. 巻 30 (4)
2. 論文標題 老年期における不安 - 身体疾患を有する方の不安への対応	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本老年精神医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 373-379
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ishikawa S, Chen J, Fujisawa D, Tanaka T.	4. 巻 -
2. 論文標題 The Development, Progress, and Current Status of Cognitive Behaviour Therapy in Japan.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Australian Psychologist	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ap.12450	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田佳詠	4. 巻 6
2. 論文標題 多職種チームのケースフォーミュレーション	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 精神療法	6. 最初と最後の頁 80-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田佳詠	4. 巻 12(2)
2. 論文標題 精神療法の論文がアクセプトされるために 研究のまとめ方と論文投稿のポイント 集団の精神療法をエビデンスにする: Mixed Methods Research (混合研究法) による試み	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 認知療法研究	6. 最初と最後の頁 39-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田島美幸, 石川博康, 吉岡直美, 原祐子, 佐藤洋子, 酒見伯子, 吉原美沙紀, 藤里紘子, 重枝裕子, 岡田佳詠, 藤澤大介	4. 巻 74
2. 論文標題 地域における「認知症の家族介護者向け認知行動療法プログラム」に関する取り組み	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 保健師ジャーナル	6. 最初と最後の頁 1046-1051
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田島美幸, 石川博康, 吉原美沙紀, 原祐子, 藤里紘子, 岡田佳詠, 藤澤大介	4. 巻 12
2. 論文標題 認知症の家族介護者のメンタルヘルスと認知療法・認知行動療法	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 認知療法研究	6. 最初と最後の頁 31-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田島美幸, 石川博康, 原祐子, 藤澤大介	4. 巻 1
2. 論文標題 認知症の家族介護者へのアプローチ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本精神科病院協会雑誌	6. 最初と最後の頁 48-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤澤大介	4. 巻 30
2. 論文標題 老年期における不安 - 身体疾患を有する方の不安への対応	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本老年精神医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 373-379
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野佐代子, 木村範子, 大和田陽子, 藤澤大介	4. 巻 61
2. 論文標題 服薬指導上知っておきたい認知機能障害に配慮したコミュニケーション	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月間薬事	6. 最初と最後の頁 49-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤澤大介, 八田耕太郎	4. 巻 4940
2. 論文標題 日常外来で効率よくマインドフルな状態に導けるような指導手順は? 一般外来でのマインドフルネスの導入	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本医事新報	6. 最初と最後の頁 56-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤澤大介	4. 巻 44
2. 論文標題 短時間の外来診療に認知行動療法のエッセンスを活かす	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 精神療法	6. 最初と最後の頁 475-479
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村法子, 藤澤大介	4. 巻 147
2. 論文標題 認知症トータルケア: 心理検査と行動評価尺度: 認知症の行動・心理症状の評価: CMAI	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本医師会雑誌	6. 最初と最後の頁 183-184
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 色本涼, 田村法子, 藤澤大介	4. 巻 4964
2. 論文標題 診察室ですべき認知症の人と家族への非薬物療法	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本医事新報	6. 最初と最後の頁 24-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sado Mitsuhiro, Park Sunre, Ninomiya Akira, Sato Yasuko, Fujisawa Daisuke, Shirahase Joichiro, Mimura Masaru	4. 巻 11
2. 論文標題 Feasibility study of mindfulness-based cognitive therapy for anxiety disorders in a Japanese setting	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 BMC Research Notes	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s13104-018-3744-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田島美幸	4. 巻 7
2. 論文標題 認知症における認知行動療法の活用	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 精神療法増刊	6. 最初と最後の頁 156-162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 色本涼, 田村法子, 田島美幸, 石川博康, 原祐子, 重枝裕子, 吉崎崇仁, 船木桂, 田淵肇, 三村將, 藤澤大介	4. 巻 13(2)
2. 論文標題 認知症家族介護者に対する集団認知行動療法：日本版START (家族のための戦略) プログラム	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 110-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田島美幸, 今村扶美, 平林直次, 入江美帆, 田代奈保美, 川原可奈	4. 巻 13(2)
2. 論文標題 発達障害を抱えた勤労者を支える支援	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 認知症法研究	6. 最初と最後の頁 110-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田島美幸, 原祐子, 横井優磨, 堀越勝	4. 巻 32(2)
2. 論文標題 認知症の家族介護者に対する集団認知行動療法プログラムの実施可能性と有用性の検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 237-244
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田佳詠, 中村優美	4. 巻 14(1)
2. 論文標題 看護師の精神疾患への認知行動療法の質の確保 国外の系統的質的文献レビューから	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 認知療法研究	6. 最初と最後の頁 65-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sado M, Ninomiya A, Nagaoka M, Koreki A, Goto N, Sasaki Y, Takamori C, Kosugi T, Yamada M, Park S, Sato Y, Fujisawa D, Nakagawa A, Mimura M	4. 巻 11(1)
2. 論文標題 Effectiveness of mindfulness-based cognitive therapy follow-up programs for pharmacotherapy refractory anxiety disorders: a study protocol for a randomized controlled feasibility trial.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 JMIR Res Protoc	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2196/33776	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sado M, Koreki A, Ninomiya A, Kurata C, Mitsuda D, Sato Y, Kikuchi T, Fujisawa D, Ono Y, Mimura M, Nakagawa A.	4. 巻 75(11)
2. 論文標題 Cost-effectiveness analysis of augmenting cognitive behavioral therapy for pharmacotherapy-resistant depression at secondary care.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 341-350
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.13298	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kosugi T, Ninomiya A, Nagaoka M, Hashimoto Z, Sawada K, Park S, Fujisawa D, Mimura M, Sado M	4. 巻 12
2. 論文標題 Effectiveness of mindfulness-based cognitive therapy for improving subjective and eudaimonic well-being in healthy individuals: A randomized controlled trial.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2021	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tamura N, Park S, Sato Y, Sato Y, Takita Y, Ninomiya A, Sado M, Mimura M, Fujisawa D.	4. 巻 -
2. 論文標題 Predictors and moderators of outcomes in mindfulness-based cognitive therapy intervention for early breast cancer patients.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Palliat Support Care	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S147895152100078X	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤澤大介, 朴順禮	4. 巻 31(5)
2. 論文標題 マインドフルネスとコンパッションによる燃え尽き低減プログラム : MaHALOプログラム	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 緩和ケア	6. 最初と最後の頁 371-374
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤澤大介	4. 巻 47(3)
2. 論文標題 オンラインによるスーパービジョンのポイント	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神療法	6. 最初と最後の頁 320-325
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤澤大介, 田島美幸, 田村法子, 色本涼.	4. 巻 63(8)
2. 論文標題 認知症家族介護者に対する認知行動療法	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神医学	6. 最初と最後の頁 1223-1230
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤澤大介, 石川博康, 佐藤純, 田野中恭子, 田島美幸, 大江美佐里, 朴順禮.	4. 巻 14(2)
2. 論文標題 ケアする人のケアを考える	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 認知療法研究	6. 最初と最後の頁 129-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田島美幸, 原祐子, 重枝裕子, 吉岡直美, 石橋広樹, 鈴木斎絵, 藤澤大介	4. 巻 33(7)
2. 論文標題 COVID-19禍における認知症の家族介護者を対象とした集団認知行動療法プログラムの実践の工夫と効果検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 投稿受理
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計33件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 重枝裕子, 田島美幸, 原祐子, 吉岡直美, 田村法子, 色本涼, 石川博康, 藤澤大介
2. 発表標題 地域包括支援センターでの「認知症の家族介護者を対象とした 認知行動療法プログラム」の開発
3. 学会等名 集団認知行動療法研究会第10回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤澤大介, 田島美幸, 石川博康, 原祐子, 色本涼, 田村法子
2. 発表標題 認知症の家族介護者に対する認知行動療法
3. 学会等名 第20回日本認知療法・認知行動療法研修会(ワークショップ)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田島美幸
2. 発表標題 認知症の方と家族への支援～家族介護支援のスキルアップ～
3. 学会等名 横浜市中区支援者研修(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤澤大介, 田島美幸, 石川博康
2. 発表標題 認知症の介護に携わる家族・介護者のための ストレス・ケアー認知行動療法のテクニック
3. 学会等名 九州認知行動療法研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshie Okada, Toshie Amano, Tomomi Nemoto, Naomi Yoshinaga, Susumu Kitano, Rie Yanauchi, Makiko Nakano, Yuko Shiraishi, Hiroko Kunikata
2. 発表標題 Effectiveness of Group Supervision in Nurse-Administered Cognitive Behavioral Therapy
3. 学会等名 9th World Congress of Behavioural & Cognitive Therapies(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡田佳詠
2. 発表標題 人を結び、チームを育てる
3. 学会等名 第19回日本認知療法・認知行動療法学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡田佳詠
2. 発表標題 精神科病院や地域で働く臨床看護師の認知行動療法実践とスーパービジョンの現状と課題 看護師に対するグループスーパービジョン教育研修
3. 学会等名 第19回日本認知療法・認知行動療法学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡田佳詠
2. 発表標題 看護師が実践するCBTの質の担保には何が必要か？
3. 学会等名 2019年度（一社）看護のための認知行動療法研究会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 色本涼，藤澤大介，田村法子，入江幸子，岩下覚，三村將
2. 発表標題 認知症介護者における主観的幸福感に関連する心理社会的因子の検討．
3. 学会等名 第38回日本認知症学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shikimoto R, Fujisawa D, Tamura N, Hirano S, Kanba R, Shimomura Y, Irie S, Iwashita S, Mimura M.
2. 発表標題 Group cognitive behavior therapy program for family caregivers of people with dementia: a single arm pilot study
3. 学会等名 2nd Innovations and State of the Art In Dementia Research (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshie O
2. 発表標題 Attitudes and skills necessary for supervision of cognitive behavioral therapy for nurses (1st report)
3. 学会等名 22st EAFONS(22st East Asian Forum of Nursing Scholars) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田島美幸, 石川博康, 吉原美沙紀, 原祐子, 藤里紘子, 岡田佳詠, 藤澤大介
2. 発表標題 認知症の家族介護者を対象とした訪問看護師による認知行動療法プログラムの開発
3. 学会等名 第18回日本認知療法・認知行動療法学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤澤大介, 色本涼, 田村法子, 入江幸子, 岩下覚, 三村将
2. 発表標題 認知症家族介護者に対する集団認知行動療法プログラムの開発
3. 学会等名 第33回日本老年精神医学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木村範子, 河野佐代子, 大和田陽子, 田中謙二, 藤澤大介, 林聖純
2. 発表標題 高齢者認知障害サポートチーム(Dementia Support Team:DST)の活動報告
3. 学会等名 日本総合病院精神医学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤澤大介
2. 発表標題 集団認知行動療法のクオリティ・コントロール
3. 学会等名 第18回日本認知療法・認知行動療法学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡田佳詠, 白石裕子, 國方弘子
2. 発表標題 看護師に対するグループスーパービジョンを導入した認知行動療法研修プログラムの効果 質的分析結果から
3. 学会等名 第18回日本うつ病学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡田佳詠
2. 発表標題 認知行動療法を実践する看護師へのグループスーパービジョンの効果検証-2クールまでの問題解決行動力への効果の検討
3. 学会等名 第8回国際医療福祉大学学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡田佳詠
2. 発表標題 看護基礎教育における認知行動療法の教育の試みと課題
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡田佳詠, 白石裕子, 國方弘子
2. 発表標題 精神科看護師へのスーパービジョン 認知行動療法の質の確保のために
3. 学会等名 日本精神保健看護学会第28回学術集会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 原祐子, 田島美幸, 深津亮
2. 発表標題 「多職種による女性の特性を生かした認知症支援」 特有のジェンダー課題とはどのようなものか - 臨床心理士による介護者支援
3. 学会等名 第39回本認知症学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田島美幸
2. 発表標題 「ケアする人のケアを考える」 認知症家族介護者に対する認知行動療法
3. 学会等名 第20回日本認知療法・認知行動療法学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田島美幸
2. 発表標題 認知症の家族支援における認知行動療法の活用
3. 学会等名 第20回日本認知療法・認知行動療法学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松井真琴, 田島美幸, 山下真吾, 菅原典夫, 野崎和美, 和田歩, 藤巻千夏, 横井優磨, 大町佳永
2. 発表標題 iSupport日本版におけるフォーカスグループの実施報告
3. 学会等名 第20回日本認知療法・認知行動療法学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 色本涼, 藤澤大介, 田島美幸, 原祐子, 重枝裕子, 吉岡直美, 石川博康, 田村法子, 三村將.
2. 発表標題 地域包括支援センターにおける認知症介護家族への集団認知行動療法プログラムの有用性
3. 学会等名 第35回日本老年精神医学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡田佳詠
2. 発表標題 認知行動療法を実施する看護師のスーパーバイザーに求められる態度・スキル
3. 学会等名 第18回日本うつ病学会総会第21回日本認知療法・認知行動療法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 原祐子, 田島美幸
2. 発表標題 「認知症の家族介護者に対する心理的ケア」 地域で展開する認知症の家族向け集団認知行動療法/個別認知行動療法の実践
3. 学会等名 第18回日本うつ病学会総会第21回日本認知療法・認知行動療法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河野佐代子, 江口洋子, 田中謙二, 中野直美, 藤澤大介, 竜崎俊亘, 林田健太郎, 三村將
2. 発表標題 認知機能低下患者の意思決定支援における循環器内科との取り組み(実践報告)
3. 学会等名 第34回日本総合病院精神医学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤澤大介
2. 発表標題 「認知行動療法10年の軌跡と今後の展望」 認知行動療法の基盤スキルと普及・均てん化に向けたマニュアル整備
3. 学会等名 第117回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田島美幸, 腰みさき, 藤川真由, 小西海香, 清水恒三朗, 斎藤文恵, 佐渡充洋, 藤澤大介, 菊地俊暁, 三村將
2. 発表標題 高次脳機能障害患者に対する怒りの制御に関する集団認知行動療法プログラムの開発の試み
3. 学会等名 第45回日本神経心理学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 清水恒三朗, 藤川真由, 田島美幸, 小林由季, 腰みさき, 小西海香, 斎藤文恵, 菊地俊暁, 三村將.
2. 発表標題 高次脳機能障害患者に対するアンガーマネジメントトレーニングマニュアル日本語版作成の試み
3. 学会等名 第45回日本神経心理学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤澤大介, 田島美幸, 石川博康, 原祐子, 色本涼, 重枝裕子, 田村法子
2. 発表標題 認知症介護における認知行動療法
3. 学会等名 第21回日本認知療法・認知行動療法学会ワークショップ(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤澤大介
2. 発表標題 こころの健康の保ち方
3. 学会等名 葛飾区自殺対策講演会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田島美幸
2. 発表標題 認知症の介護に携わる家族・介護者のためのストレスケアを学ぶ.
3. 学会等名 日本臨床心理カウンセリング協会セミナー(招待講演)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 田島美幸, 藤澤大介, 石川博康	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金剛出版	5. 総ページ数 136
3. 書名 ワークで学ぶ 認知症家族・介護者のためのストレスケア 認知行動療法のテクニック	

1. 著者名 藤澤大介	4. 発行年 2021年
2. 出版社 培風館	5. 総ページ数 198
3. 書名 4-14 認知症介護家族への認知行動療法 (集団認知行動療法の進め方. 大野裕、堀越勝監修, 田島美幸編)	

1. 著者名 藤澤大介	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 828
3. 書名 うつ病の認知療法・認知行動療法 厚生労働省マニュアル (認知行動療法事典. 日本認知行動療法学会編)	

1. 著者名 藤澤大介	4. 発行年 2019年
2. 出版社 誠信書房	5. 総ページ数 250
3. 書名 認知行動療法の効率的な学び方 (サイコセラピーの饗宴, 井上和臣編)	

1. 著者名 藤澤大介, 木村範子, 河野佐代子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 240
3. 書名 せん妄に関する大事な要因 - 医療者への支援 (DELTAプログラムによるせん妄対策 - 多職種で取り組む予防, 対応, 情報共有. 小川朝生, 佐々木千幸編)	

1. 著者名 藤澤大介, 河野佐代子, 木村範子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 240
3. 書名 スタッフへのサポートの事例 (DELTAプログラムによるせん妄対策 - 多職種で取り組む予防, 対応, 情報共有. 小川朝生, 佐々木千幸編)	

1. 著者名 岡田佳詠	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中外医学社	5. 総ページ数 8
3. 書名 ナースの精神医学 改訂5版	

1. 著者名 田島美幸	4. 発行年 2020年
2. 出版社 培風館	5. 総ページ数 198
3. 書名 第3章 スタッフの役割とスキルトレーニング (集団認知行動療法の進め方 大野裕, 堀越勝監修, 田島美幸編)	

1. 著者名 岡田佳詠	4. 発行年 2020年
2. 出版社 培風館	5. 総ページ数 198
3. 書名 第4章-1 気分障害 大うつ病性障害の集団認知行動療法（集団認知行動療法の進め方 大野裕，堀越勝監修，田島美幸編）	

1. 著者名 藤澤大介	4. 発行年 2021年
2. 出版社 金剛出版	5. 総ページ数 144
3. 書名 第1章 集団認知行動療法の治療者に求められるもの 木を見て森も見る（もう一歩上を目指す人のための集団認知行動療法治療者マニュアル 中島美鈴，藤澤大介，松永美希，大谷真編著）	

1. 著者名 田島美幸	4. 発行年 2021年
2. 出版社 金剛出版	5. 総ページ数 144
3. 書名 第6章 疾患別・分野別のグループのコツ 12産業場面・リワーク（もう一歩上を目指す人のための集団認知行動療法治療者マニュアル 中島美鈴，藤澤大介，松永美希，大谷真編著）	

1. 著者名 岡田佳詠	4. 発行年 2021年
2. 出版社 金剛出版	5. 総ページ数 144
3. 書名 第6章 疾患別・分野別のグループのコツ 9女性グループ（もう一歩上を目指す人のための集団認知行動療法治療者マニュアル 中島美鈴，藤澤大介，松永美希，大谷真編著）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤澤 大介 (FUJISAWA Daisuke) (30327639)	慶應義塾大学・医学部(信濃町)・准教授 (32612)	
研究分担者	岡田 佳詠 (OKADA Yoshie) (60276201)	国際医療福祉大学・成田看護学部・教授 (32206)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	原 祐子 (HARA Yuko)		
研究協力者	川西 智也 (KAWANISHI Tomoya)		
研究協力者	重枝 裕子 (SHIGEEDA Yuko)		
研究協力者	田村 法子 (TAMURA Noriko)		
研究協力者	近藤 裕美子 (KONDO Yumiko)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	岩元 健一郎 (IWAMOTO Kenichiro)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関